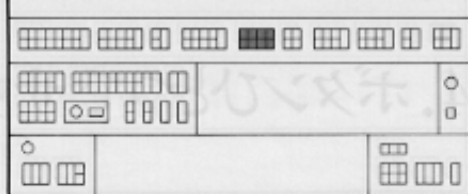
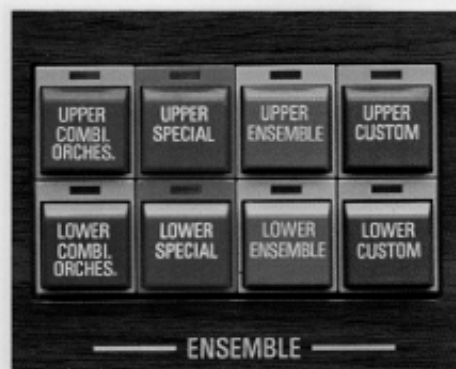


3. 音色を組み合わせてみましょう



アンサンブル

上鍵盤と下鍵盤の音色のスイッチです。
2つ以上のボタンを入れると、音色を組み合わせて使うことができます。

1 組み合わせたい音色をそれぞれセット。

各音色のグループで音色を選び、音量を調節してください。
(4~8ページを参照)

2 アンサンブルのボタンで音色を組み合わせ、 鍵盤を弾いてみましょう。

(例) 上鍵盤: コンビネーション/
オーケストラ+カスタムボイス
下鍵盤: スペシャルプリセット
+アンサンブルボイス

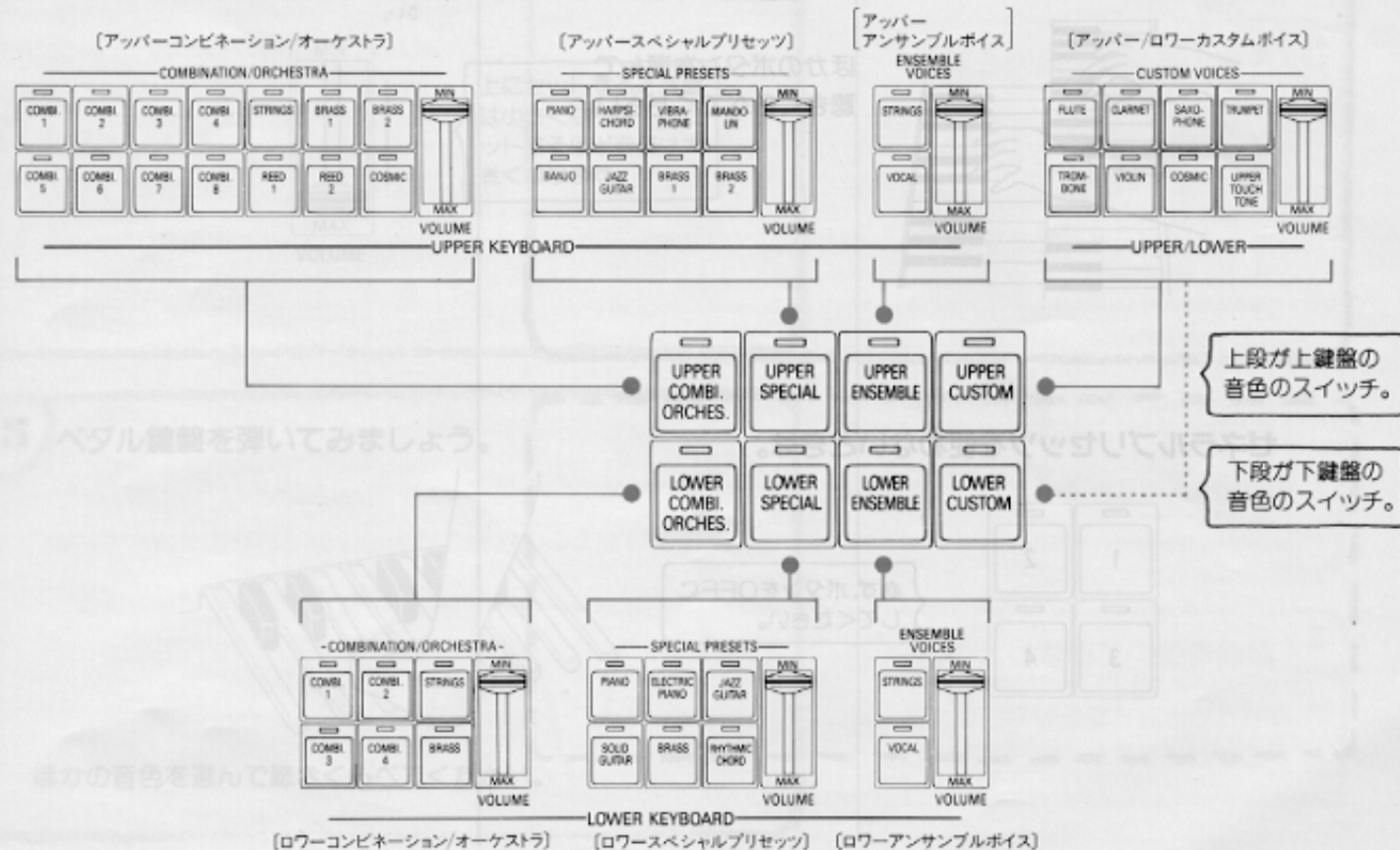
下の図を参考にして、いろいろな組み合わせをためてください。

次のステップへ進みましょう

[音色のチェンジが素早くできます]

アンサンブルでは、各音色のON/OFFを一か所で集中的にコントロールすることができます。使い方に慣れたら、演奏の切れ目で音色の組み合わせ方を変えてみましょう。

- 上鍵盤と下鍵盤のそれぞれで、最大4つの音色を組み合わせることができます。
- アッパー/ローカustomボイスは、上鍵盤で使うか、下鍵盤で使うかを選んでください。同時に両方の鍵盤で使うことはできません。



4. ボタンひとつでサウンドをセット



GENERAL PRESETS

ゼネラルプリセット

上鍵盤と下鍵盤の音色の組み合わせと音量をプリセット。
いろいろなサウンドがボタンひとつでセットできます。

1 ボタンをひとつ選ぶ。

プラス・
サキソフォン
アンサンブル



ストリングス・
ハーブシコード
アンサンブル

チャーチオルガン

シアターオルガン

GENERAL PRESETS

次のステップへ進みましょう

〔ゼネラルプリセットとほかのセクションの関係〕

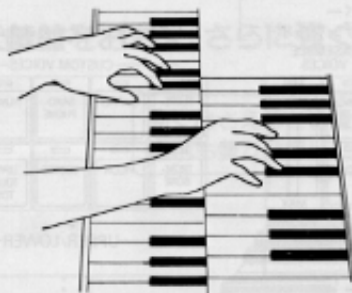
ゼネラルプリセットを使っているとき：ほかのセクションでセットしている上鍵盤と下鍵盤の音色はでなくなります。

ゼネラルプリセットを使わないとき：ほかのセクションでセットした音色をだしたいときは、必ずゼネラルプリセットのボタンをOFFにしてください。

●ゼネラルプリセットの音色と音量のバランスは変更することができません。

●プリセットされているのは、上・下鍵盤の音色、音量です。ペダル鍵盤の音色やオートリズム、オートベース/コードなどは、演奏する曲目に合わせてセットしてください。

2 上鍵盤と下鍵盤を弾いてみましょう。



ほかのボタンを選んで
聴きくらべてください。

ゼネラルプリセットを使わないときは。



必ず、ボタンをOFFに
してください。

5. ペダル鍵盤の音色



ペダルカスタムボイス

いろいろな低音楽器の音が選べます。

1 音色をひとつ選ぶ。

オルガン系のバス音色



コントラバス

エレクトリックベース

2 音量をセット。



上にセットすると音量は小さくなり、下にセットするほど音量は大きくなります。

3 ペダル鍵盤を弾いてみましょう。



ほかの音色を選んで聴きくらべてください。

次のステップへ進みましょう

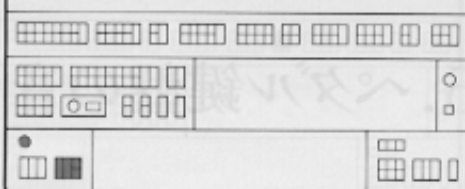
〔ペダルカスタムボイスは単音です〕

ペダル鍵盤は左足で演奏するため、同時に複数の音はでないようになっています。同時にいくつかの鍵盤を踏むと、そのうち一番高い音が1音でできます。

●オートベース/コードを使えば、ペダル鍵盤を弾かなくても自動的にベース伴奏ができます。(くわしくは21ページを参照)

●オルガン系のバス1、バス2は持続音、コントラバスとエレクトリックベースは減衰音です。

6. 音に表情をつけて豊かな響きに(効果)



トレモロ/シンフォニック

コンビネーション/オーケストラの音色にひろがりをもたせます。曲想に応じて3つの効果を使い分けことができます。

1 上・下鍵盤のコンビネーション/オーケストラ音色をセット。

音色を選び、音量をセットしてください。(4ページを参照)

2 右側のボタンを入れる。



上鍵盤のコンビネーション/オーケストラに効果をかけるスイッチ。

下鍵盤のコンビネーション/オーケストラに効果をかけるスイッチ。

3 左側のボタンで効果を選ぶ。



(ゆるやかな
トレモロ効果)
音がゆるやかにうねり、うるおいとひろがりをもたせます。



(速いトレモロ効果)
音が速くうねり、うるおいとひろがりをもたせます。



(シンフォニック効果)
多くの楽器で合奏しているような豊かな響きにします。

4 鍵盤を弾いてみましょう。

ひろがりのある響きが得られます。トレモロとシンフォニックのちがいを聴きくらべてみましょう。

次のステップへ進みましょう

(トレモロスピード)

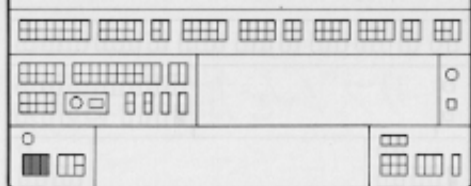
トレモロのボタンを入れて速いトレモロ効果を選んでいるときは、トレモロスピードのつまみで、うねりの速さをコントロールすることができます。中央の位置が普通の状態ですが、右に回すとうねりが速くなり、左に回すとうねりがゆるやかになります。



TREMOLO SPEED

●トレモロとシンフォニックのボタンを2つともONすると、シンフォニックが優先されます。

●アンサンブルのアップパーアンサンブル、ロワーアンサンブルがONされているとき、またはゼネラルプリセットの2が選ばれているときは、トレモロとシンフォニックのボタンのON/OFFに関係なくシンフォニック効果がかかります。



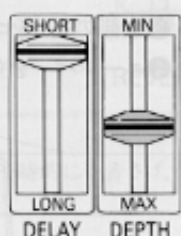
ビブラート

上鍵盤と下鍵盤の音をこきざみにふるわせ、うるおいをもたせます。

まず、普通のビブラートをかけてみましょう。

1 上鍵盤と下鍵盤の音色をセット。

2 デプスを手前にセット。



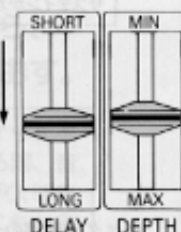
手前に引くほど音のふるえ方が大きくなります。

3 鍵盤を弾くと、音がこきざみにふるえます。

上鍵盤の音にディレイビブラートをかけてみましょう。

1 ディレイを手前にセット。

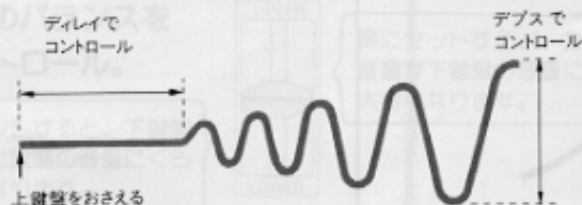
手前に引くほどビブラートがかかりはじめるまでの時間が長くなります。



デプスも必ずセット。

2 上鍵盤を弾いてみましょう。

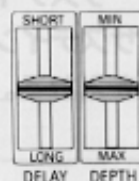
鍵盤をおさえてから、少しおくれて音がふるえはじめます。



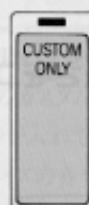
次のステップへ進みましょう

〔カスタムボイスだけにビブラートをかけてみましょう〕

- ① アッパー/ロウーカスタムボイスと、そのほかの音色をセット。
- ② デプスとディレイをセット。



- ③ カスタムオナーリーのボタンを入れる。



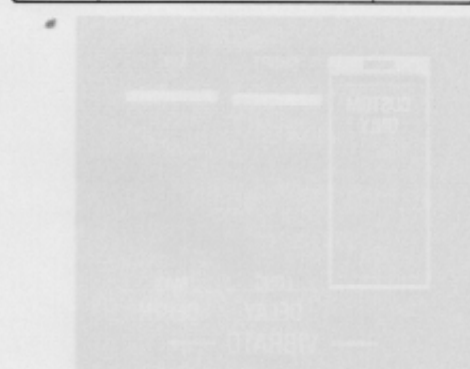
- ④ 鍵盤をおさえると、カスタムボイスの音色だけにビブラートがかかります。

- ペダルカスタムボイスとオートアルペジオの音にはビブラートがかからないようになっています。

- ディレイビブラートでは、ディレイのレバーをセットするだけではビブラートはかかりません。デプスのレバーも必ずセットしてください。

- 上・下鍵盤を同時に弾いているとき、ディレイビブラートをセットすると、下鍵盤の音にも上鍵盤と同じタイミングでディレイビブラートがかかります。

- カスタムボイスにかかるディレイビブラートは、鍵盤をレガートに弾いても、それぞれの音に対してかかります。そのほかの音色では、レガートに弾くと最初の音にだけディレイビブラートがかかります。

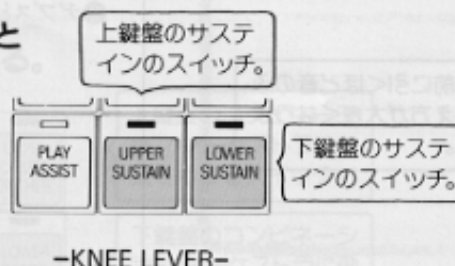


サステイン

鍵盤から指や足をはなしたあと、音に自然な余韻をつけます。

- 1 上鍵盤、下鍵盤、ペダル鍵盤の音色をセット。
(アッパー/ロウカスタムボイス以外の音色をセットしてください。)

- 2 アッパーサステインとロウサステインのボタンを入れる。

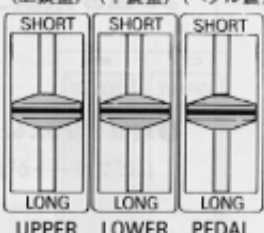


—KNEE LEVER—

- 3 余韻の長さをコントロール。

手前に引くほど余韻が長くなります。

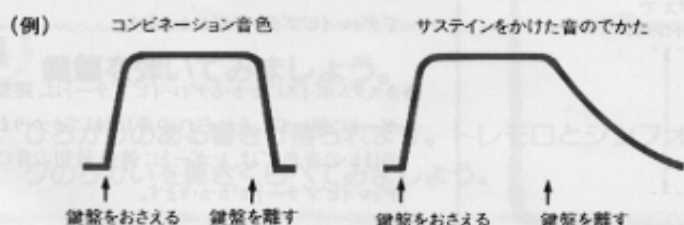
(上鍵盤) (下鍵盤) (ペダル鍵盤)



—SUSTAIN—

- 4 それぞれの鍵盤をおさえ、指と足をはなしてみよう。

音に余韻がつき、自然な感じで消えていきます。



次のステップへ進みましょう

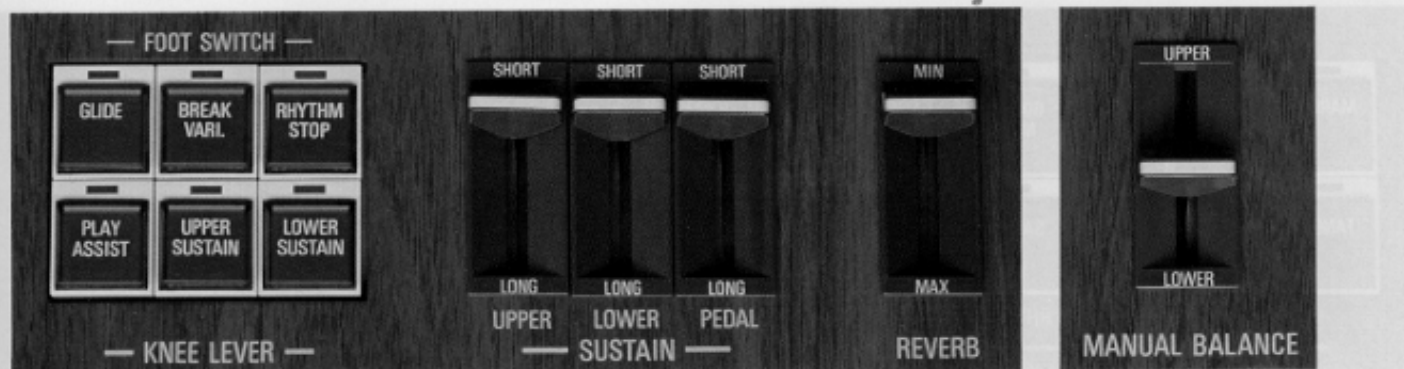
- [ニーレバーでサステインをかけてみましょう]
- 1 上鍵盤、下鍵盤の音色をセット。
 - 2 アッパーサステイン、ロウサステインのボタンをON。
 - 3 余韻の長さをコントロール。
 - 4 ニーレバーを立て、演奏を始める。



- 5 演奏中にサステインをかけたいところになったら、ニーレバーを右におす。



- ペダル鍵盤のサステイン効果は、ニーレバーでコントロールすることはできません。
- アッパー/ロウカスタムボイス音色には、サステイン効果はかかりません。



リバーブ

音に残響をつけ、大きなホールで演奏しているような響きにします。

残響の長さをセット。



REVERB

手前に引くほど長い残響がつけます。

次のステップへ進みましょう

- リバーブ効果がかかるのは、上・下鍵盤の音です。ペダル鍵盤とリズムの音にはかかりません。

グライド

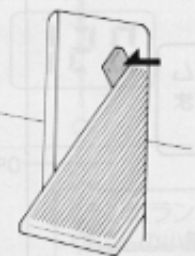
音を一時的に半音さげ、徐々にもとの音程にもどします。

- 1 グライドのボタンを入れる。



- 2 鍵盤をおさえながら、フットスイッチをおす。

フットスイッチをおしている間、音が半音さがり、はなずと徐々にもとの音程にもどります。



- この効果を使うと：トロンボーンやギターのスライド奏法のような表現をすることができます。

- カスタムボイスだけにグライド効果をかけたいとき：ビブラートのカスタムオンリー(13ページを参照)のボタンを入れてください。アッパー/ロウアカスタムボイスの音色だけにグライド効果をかけることができます。

- ペダル鍵盤の音とオートアルペジオの音には、グライド効果はかかりません。

マニュアルバランス

上鍵盤と下鍵盤の音量のバランスをコントロールします。

音量のバランスをコントロール。



奥にセットすると、上鍵盤の音量が下鍵盤の音量にくらべ大きくなります。

手前にセットすると、下鍵盤の音量が上鍵盤の音量にくらべ大きくなります。

MANUAL BALANCE

- 普通は、中央よりややアッパーよりにセットします。

7. リズムを加えてみましょう



オートリズム

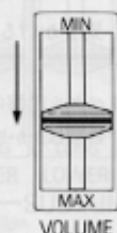
いろいろな打楽器の音で自動的にリズムがでてきます。

まず、リズムをスタートさせてみましょう。

1 リズムパターンをひとつ選ぶ。



2 音量をセット。



手前に引くほどリズムの音量が大きくなります。

3 スタートのボタン(右側)を入れる。



ほかのリズムパターンを選んで聴きくらべてみましょう。

ボタンをONするとリズムがスタート。もう一度おすとストップします。

次のステップへ進みましょう

[リズムパターンの組み合わせ]

上段のボタンを2つ以上、または下段のボタンを2つ以上同時にONすると、リズムパターンを組み合わせることができます。ただし、上段のリズムパターンと下段のリズムパターンを組み合わせることはできません。

●スタートのボタンは、伴奏より先にリズムをスタートさせたいときなどにお使いください。



リズムと伴奏を同時にスタートさせてみましょう。

4 シンクロスタートのボタンを入れ、下鍵盤をおさえる。

下鍵盤（またはペダル鍵盤）をおさえると同時にリズムがスタートします。

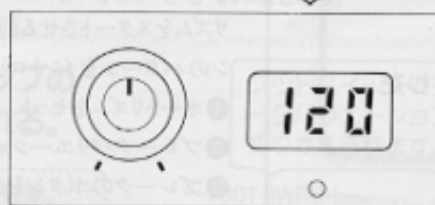


リズムの速さをコントロールしてみましょう。

5 テンポのつまみをセット。

〔デジタルディスプレイ〕
テンポのつまみでセットした速さを数字で示します。

右に回すと速くなり、左に回すと遅くなります。



TEMPO

〔テンポランプ〕
リズムの小節の1拍目ごとに点滅します。

リズム音のバランスをコントロールしてみましょう。

バランスをセット。

中央の位置が普通の状態です。



BALANCE

奥にセットすると、主に高音のハイハットなどの音が大きくなります。

手前にセットすると、主に低音のドラムなどの音が大きくなります。

次のステップへ進みましょう

●シンクロスタートは、オートベース/コードやオートアルペジオを使って伴奏するときに使うと便利です。伴奏とリズムが同時にスタートするためタイミングが取りやすくなります。（20、21、25ページを参照。）

〔デジタルディスプレイ〕

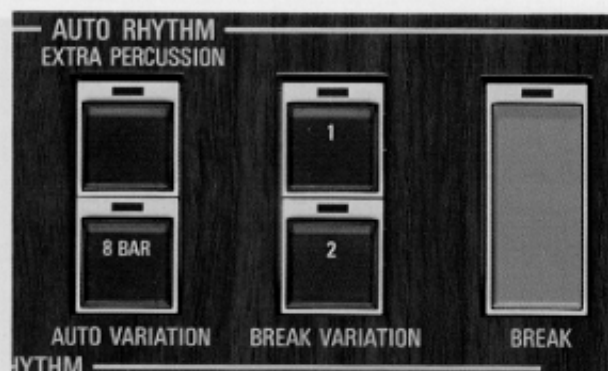
デジタルディスプレイの数字は、1分間に打つ4分音符の数でリズムの速さを示します。よく楽譜の最初に、♩=120といったテンポを指示する記号がありますが、デジタルディスプレイの表示は、これに相当します。

〔テンポランプ〕

リズムがスタートしているとき：リズムの小節の1拍目ごとに点滅しますから、リズムと演奏のタイミングを合わせるのに便利です。

リズムがストップしているとき：4分音符の単位で点滅しますから、演奏開始前にリズムのテンポが目でも確認できます。

7. リズムを加えてみましょう



オートバリエーション

選んだリズムパターンに一定の変化がつけられます。

1 オートリズムをセット。

リズムパターンを選び、ボリューム、テンポなどをセットしてください。

2 8バーのボタンを入れ、リズムをスタート。

フレーズの切れ目(8小節目)ごとにリズムパターンが変化します。



次のステップに進みましょう

●オートバリエーションのパターンは、選んだリズムパターンによって異なります。

ブレイクバリエーション

選んだリズムパターンから、特別なパターンへ一時的に切りかえることができます。

1 オートリズムをセットし、スタートさせる。

リズムパターンを選び、ボリューム、テンポなどをセットしたうえで、リズムをスタートさせてください。

2 パターンを選ぶ。

どちらかひとつをON。



16のリズムパターンに対して、それぞれ2種類ずつのパターンがあります。

3 リズムを変化させたいところで、ブレイクのボタンをおす。



ボタンをおすと、ブレイクバリエーションのパターンに切りかわり、その小節の終わりまでつづく。次の小節はもとのリズムパターンにもどります。

〔イントロ機能〕

リズムをスタートさせる前にブレイクバリエーションのパターンをイントロとして出すことができます。

- 1 オートリズムをセット。
- 2 ブレイクバリエーションのパターンを選ぶ。
- 3 ブレイクのボタンをON。
- 4 スタートのボタンをON。
- 5 リズムがスタートする前に、ブレイクバリエーションのパターンが、イントロとして1小節だけ得られます。

●ブレイクバリエーションのパターンは、選んだリズムパターンによって異なります。

●2小節以上にわたってブレイクバリエーションのパターンに切りかえたいときは、ブレイクのボタンをおしつづけてください。

●1と2のボタンを両方ともONすると、ブレイクバリエーションのパターンを組み合わせることができます。



エキストラパーカッション

選んだリズムパターンに打楽器音が加わります。

1 オートリズムをセットし、スタートさせる。

リズムパターンを選び、ボリュームやテンポなどをセットし
たうえで、リズムをスタートさせてください。

2 エキストラパーカッションのボタンを入れる。

リズムに打楽器の音(ラ
テンパーカッションや
ハンドクラップなど)
が、加わります。

EXTRA PERCUSSION



次のステップへ進みましょう

- エキストラパーカッションで加わる打楽器音は、選んだリズムパターンによって異なります。

フットスイッチセレクター

まず、フットスイッチでリズムをストップさせてみましょう。

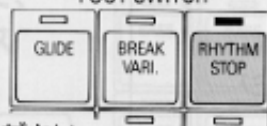
1 リズムストップのボタンを入れる。

グライド効果。
(15ページを参照)

リズムパターンを選び、
リズムをスタートさせてください。

フットスイッチでブ
レークバリエーションに
切りかえられます。

— FOOT SWITCH —



リズム
ストップ

2 リズムを止めたいところで、フットスイッチを左におす。

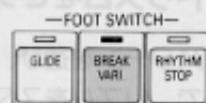
フットスイッチは、
エクスペディション
ペダルの左横に
あります。



1度おすと、リズ
ムがストップ。も
う1度おすと、リ
ズムが再スタート
します。

[フットスイッチでブレークバリエーションへ切りかえてみましょう]

- ① リズムとブレークバリエーションのパターンを選ぶ。
- ② ブレークバリエーションのボタンをON。



- ③ リズムをスタート。
- ④ ブレークバリエーションへ切りかえたいところで、フットスイッチを左におす。

[リズムストップとブレークバリエーションを両方ONした場合]

フットスイッチを1度おすと：ブレークバリエーションのパターンに切りかわったあと、リズムがストップします。

フットスイッチをもう1度おすと：リズムがスタートする前に、ブレークバリエーションのパターンが1小節得られます。